

茅野市DX基本構想(素案)

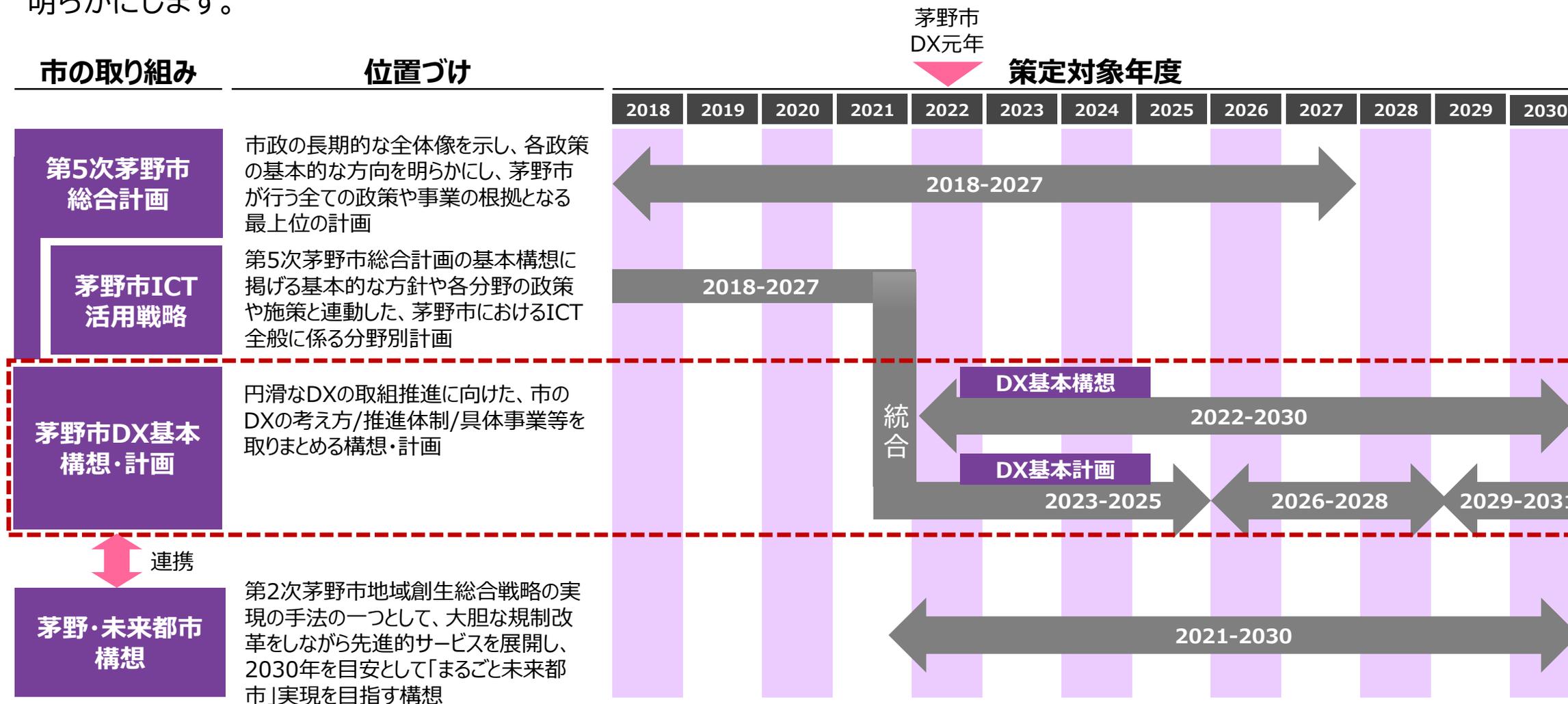


2022年3月



茅野市DX基本構想の位置づけ

当市は、2022年度を「茅野市DX元年」と位置づけており、本構想は、DX(デジタル・トランスフォーメーション)に取り組むにあたっての背景や意義、取組の理念等を明らかにするものです。なお、その具体的な進め方は「茅野市DX基本計画」にて明らかにします。





なぜDXが必要なのか

日本全体として人口減少・少子高齢化への対応や生産性向上などが課題となっている中、茅野市においても、同様の課題に直面しており、限られた人的資源のさらなる活用や行政運営の効率化などの取組が求められています。



日本全体の現状・課題

- **急激な人口減少・少子高齢化**の進展
- 新型コロナウイルス感染症による**新しい日常への対応**
- 主要先進国(G7)中最下位である**労働生産性の向上**
- ゼロカーボンを始め、世界的な課題としての**地球温暖化への対応**



茅野市の現状・課題

- 左記の社会課題に加え、以下の問題を抱えている
 - 特に若年層の人口流出が激しく、**地域の担い手、働き手が不足**
 - 市域が広く住居、拠点施設が点在していることから**行政運営のコストが高い**



日本・世界の動向

- 諸外国では、財政危機や公務員の人手不足をきっかけに、社会保障の充実やコスト削減のため**デジタル・ガバメントを推進**するとともに、事業拡大や新事業進出といったビジネスモデルの変革を伴うような**「攻め」のデジタル化への投資を拡大**
- 日本では、デジタル化の司令塔となるデジタル庁の設置や「デジタル田園都市国家構想」の実現に向けた取組を始めるなど、**デジタル社会の形成に向けた取組を加速**



茅野市において必要な取組

- 全ての市民が暮らしやすいまちでありつづけるための**行政運営の効率化**や、**限られた人的資源や知見を**住民サービスの向上や生産性向上などの**新たな価値の創出につなげる**取組
- **市に関わる人の力や国内外の知見、技術、感性などを広く取り込む**ことで、**減少する人の力を補い、さらに高めていくための取組**
- **市民活動におけるカーボンニュートラル**や**ハヶ岳西麓の環境保全**の取組の加速



デジタル技術やデータを活用した
DXの必要性



茅野市のDXが目指すもの

茅野市の強みを生かしながらデジタル技術やデータを活用することで、「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点 CHINO」の実現を目指します。



デジタル技術やデータの利点

- ニーズ(どこで、誰が、何に困っているのか)やシーズ(誰が、どのように助けられるのか)を**見える化**できる
- ニーズとシーズを距離や時間に関わらず**つなぐ**ことができる
- アナログの仕組みを置き換えることで、**効率化**できる

デジタル技術やデータの利活用により**新たなサービスが地域に広く浸透**することで、これまで年齢や地域性、資源、知見の不足など様々な理由により解決が難しかった**ニーズ**に対応し地域全体の**様々な課題解決**や、**新たな価値の創造**につなげることができる



茅野市の強み

- 観光客、別荘利用者など、**外部との交流を広く取り込む風土**
- **市民力の高さ**
 - 約20年に渡る「パートナーシップのまちづくり」で育まれた人と人とのつながり
- **デジタルの利用に寛容な市民性**
 - 国勢調査のインターネット回答率の高さから2度総務大臣表彰を受賞
 - AI乗合オンデマンド「のらざあ」の実証実験において利用者の6割がスマートフォンで予約

新たな知見や価値観を取り込み、より良いまちの実現につなげることができるポテンシャルを有している



茅野市のDXが目指すもの

「パートナーシップのまちづくり」の中で育まれた高い市民力にデジタル技術やデータの利活用を掛け合わせ、新たな価値(技術革新、生産性向上、新産業、DX人材)の創出につなげることで「**たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO**」を実現

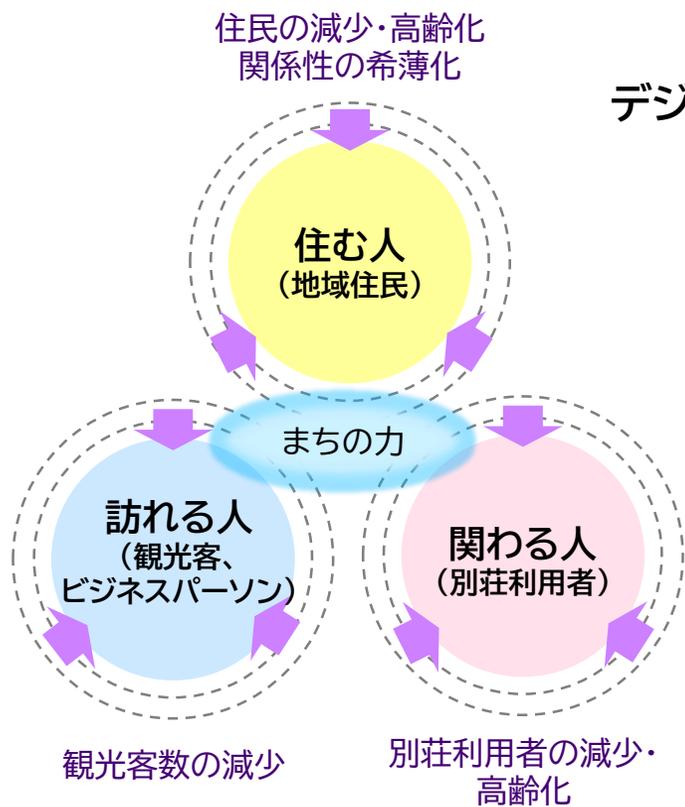


茅野市のDXの基本方針① – “未来型ゆい”の構築

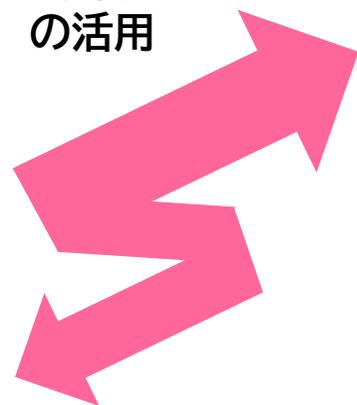
デジタル技術やデータの活用により「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力の拡大させることで、「まちの力」の向上を図り、茅野市のDXが目指す「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」の実現をします。

現在の傾向(「まちの力」の縮小)

社会情勢の変化により、人の力が減少し、「まちの力」も縮小

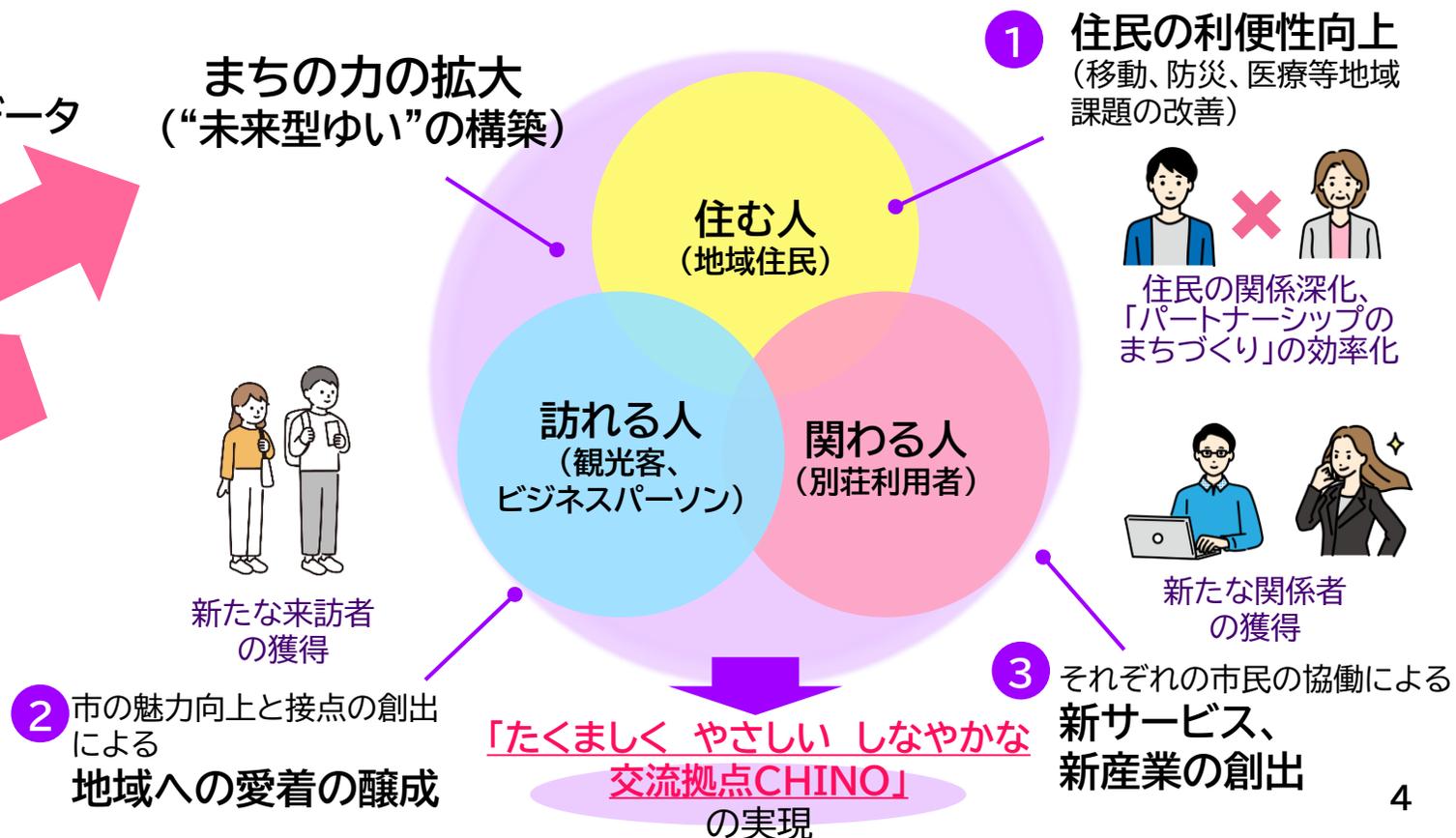


デジタル技術やデータの活用



DXによる「まちの力」の向上

「住民の利便性向上」「地域への愛着醸成」「新サービス、新産業の創出」にデジタル技術やデータを活用し、「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力と「まちの力」を拡大



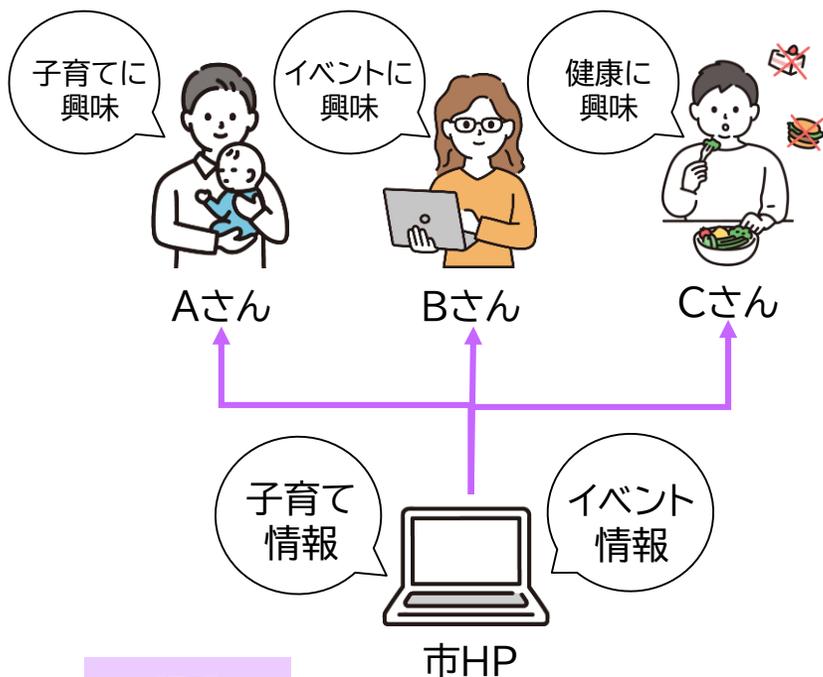


茅野市のDXの基本方針② – 一人ひとりに合わせたサービスの提供

サービス利用者から提供された「データ(=情報)」とデジタル技術を活用することで、一人ひとりのニーズに合わせたきめ細やかなコミュニケーションやサービスを提供します。

現在のサービスの例

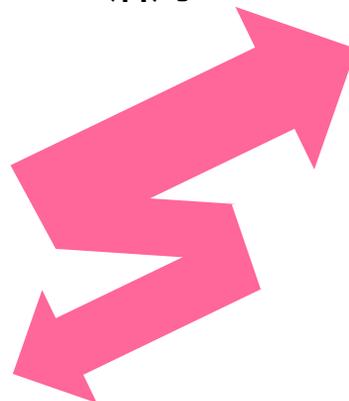
全員に同じ情報の提供



課題

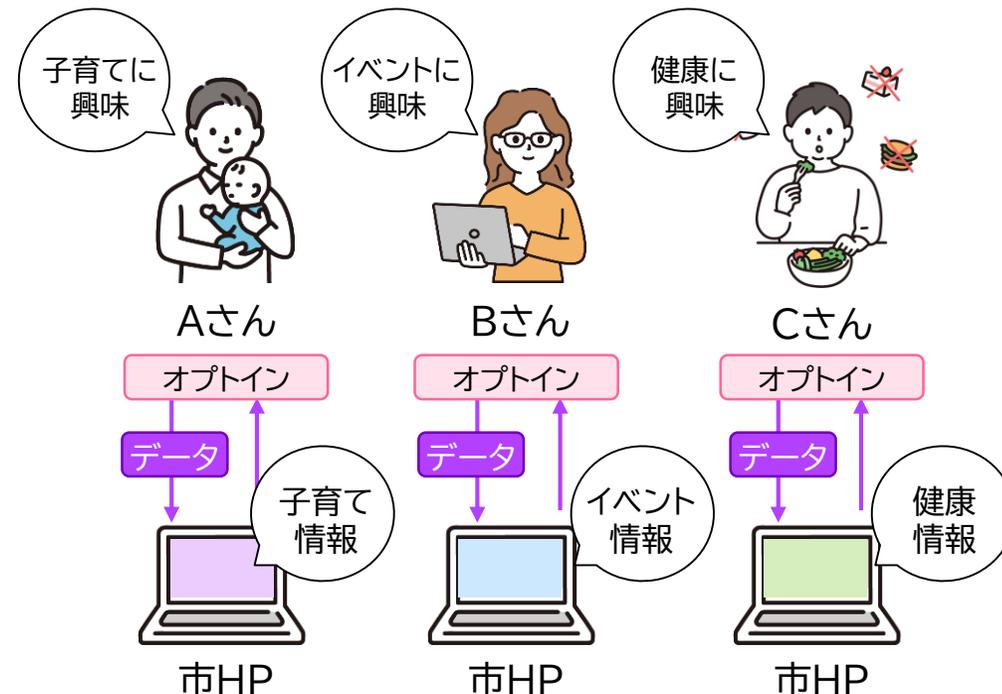
- 一人ひとりのデータ(興味関心や属性)が分からない
- 一人ひとりのデータを把握するための手段がない

デジタル技術やデータの活用



DXによる「サービス」の向上

一人ひとりの興味関心や属性に合わせた情報の提供

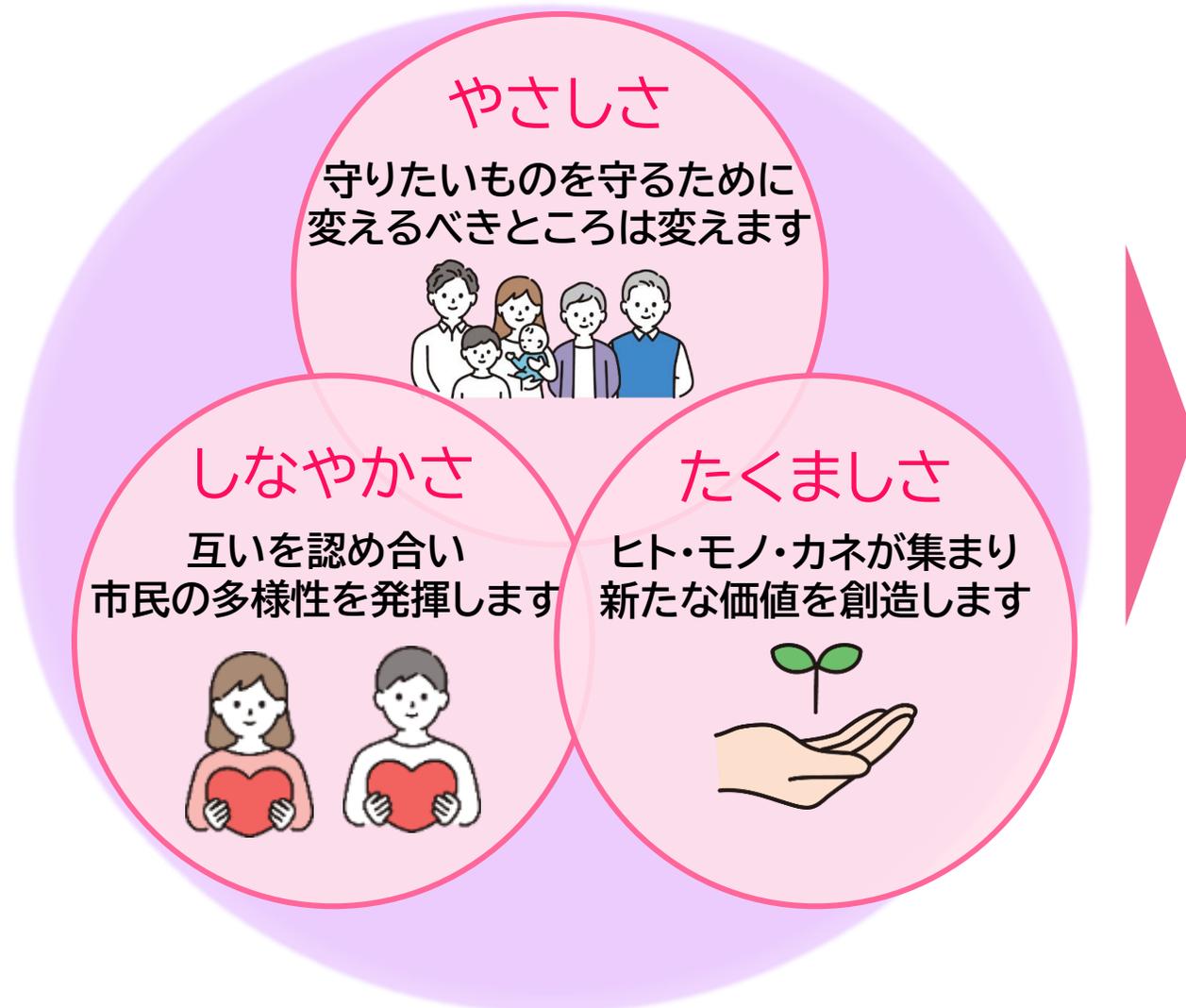


- 一人ひとりのデータ(興味関心や属性)が分かることでその人が**知りたい情報を最適なタイミングで提供**することが可能になる



茅野市のDXの基本理念①

茅野市のDXでは以下の3つの基本理念に基づき「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」(=茅野市のDXの目指すもの)を実現するための施策(=仕組み・サービス)を進めます。



たくましく やさしい しなやかな
交流拠点CHINO
の実現

茅野市のDXの基本理念②

– 守りたいものを守るために変えるべきところは変えます



人の温かさやふれあい、地域の文化や伝統を守り、人にやさしい施策(福祉、防災、教育等)をこれからも提供し続けるため、省力化や効率化を図るべき分野には積極的に新たな技術を活用します。

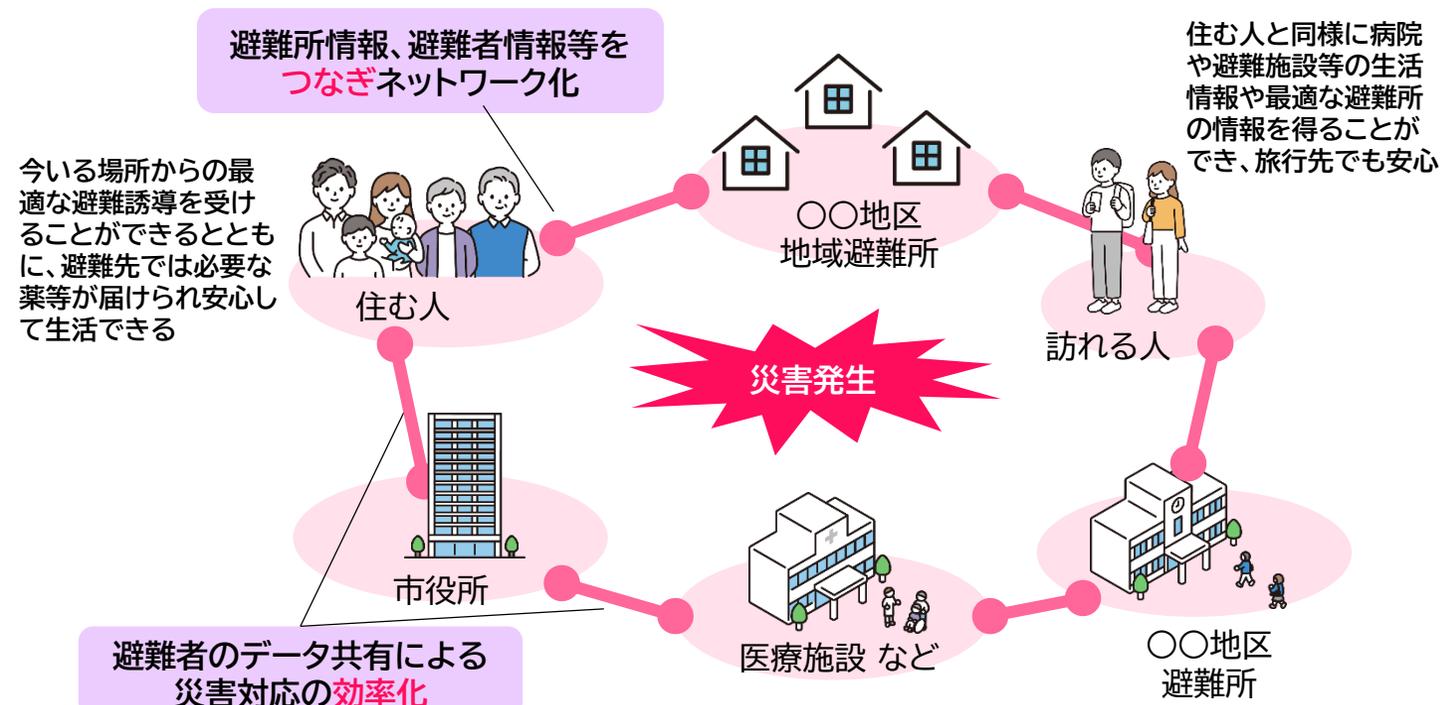
課題

- (地域DX)人口減少・少子高齢化や住民の価値観の変化により、**地域の担い手が減少**。これまで人と人とのつながりにより守られてきた地域のコミュニティを維持するため、助け合いの仕組みの**効率化**を図る必要がある。
- (行政DX)福祉、防災、教育、交通等のサービスをこれからも十分に提供するため、官民の連携体制の構築と行政運営の**効率化**を図る必要がある。

課題解決の方向性

- 地域の**担い手不足を解消**し、地域のコミュニティを維持するため、困りごとを**見える化**し、地域内外の支援の手と**つなぐ**ことで、**新たな助け合いの仕組みを構築**する。
- 人の手によらなくても良い部分はデジタル技術やデータを活用し**効率化**を図る。

具体的施策のイメージ



デジタル技術やデータによる効率化、既存の繋がり強化



茅野市のDXの基本理念③ – 互いを認め合い市民の多様性を発揮します

年齢、性別などの属性に関わらず全ての市民がDXの恩恵を受けられるよう、一人ひとりのニーズに合わせた最適なサービスを提供するとともに、誰もがそのサービスを利用できるような環境を整備します。

課題

- デジタルを利用したい人も利用したくない人も、デジタルを使える人も使えない人も、情報格差によるサービス利用の差を生じさせず、全ての市民が**DXの恩恵を受けられるようにする**。

課題解決の方向性

- 年齢・属性等に関わらず**市民一人ひとりのニーズに合わせたサービスを提供**する。
- 情報機器に不慣れな人でもデジタル技術の活用を意識せずサービスを利用できるよう**わかりやすいサービスを提供**する。
- サービスの利用希望者が自分の力でサービスを利用できるよう、その人に合った**相談や勉強の場を設ける**。
- まずは**小さくサービスを始め**、利用してもらうことで効果を実感してもらい、利用者を増やす。
- 市民が**自ら地域課題を解決する力を育む**ことで、デジタル、アナログ両面から多様なサービスを生み出す。

具体的施策のイメージ

市民一人ひとりに合わせたサービス(例)



年齢・家族構成などに合わせた、市ポータルサイトでの情報発信



PHR(※)、IoT機器を活用した要介護者の体調見守り



属性・位置情報に基づく災害時の避難誘導・家族安否確認



市民(特にデジタルが苦手な方)への支援



市民による市民のためのデジタル勉強会



デジタルよろず相談会サービス説明会の実施

市民それぞれのパーソナリティに合ったサービス・サポートの実現



茅野市のDXの基本理念④ – ヒト・モノ・カネが集まり新たな価値を創造します

主体的な地域課題解決と、デジタル社会で活躍できる人材の育成により地域の魅力を向上することで、地域内外から人材、設備投資、資金を呼び込み、それらの多様性も活かしたより良い地域の形成につなげます。

課題

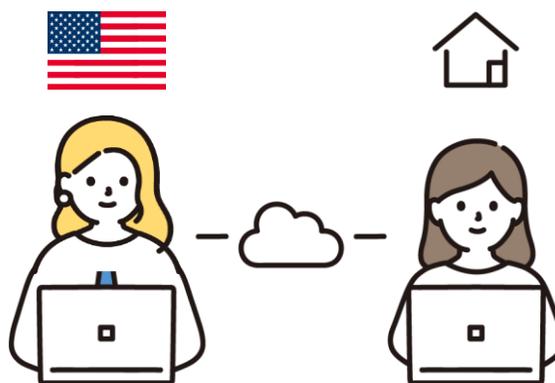
- 停滞している労働生産性を向上させるため、新たな知見や技術を取り入れ、**新たな価値を生み出す**必要がある。
- DXを地域で積極的に推進し、地域の課題を自主的に解決できる体制を整えるため、**デジタル社会で積極的に活躍できる人材を育成**する必要がある。

課題解決の方向性

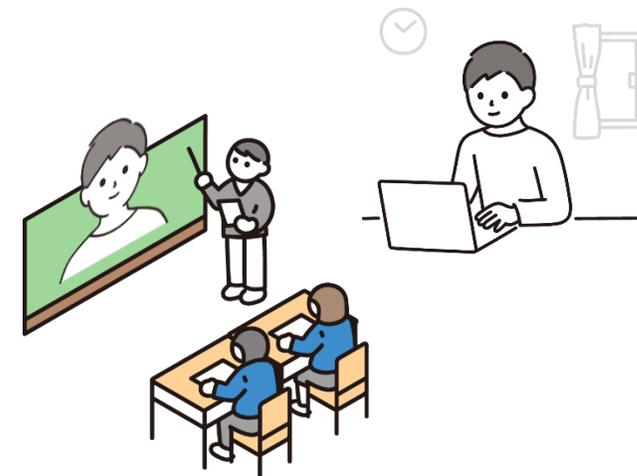
- 新たな価値を生み出し、より良い社会への変革を生み出すため、地域における仕組みやサービス、組織、ビジネスモデルに**新たな知見や技術を積極的に取り込む**。
- デジタル社会で積極的に活躍できる人材を育成するため、**小中学校におけるICT教育や大学、企業と連携したDX人材教育を実施**する。
- **国や他の地域と連携**し、日本、世界をリードするデジタル技術革新を生み出す。

具体的施策のイメージ

最先端の知見の共有



域外専門人材からの新しい教育の提供



ヒト・モノ・カネが自然と集まる魅力あるまちの実現



茅野市のDXの基本施策

施策は、3つの理念を下支えに「暮らしのDX」(=市民へのサービス提供)、「産業のDX」(=事業者向けの仕組み)を検討します。

暮らしのDX

市民目線で本当に暮らしやすさを実感できる
サービスを実現し、市の魅力を向上

- 保健、医療、福祉の高度化
- 移動の自由の確保
- 輸送・配送の最適化
- こども・親を中心とした連携体制の構築
- 誰一人取り残さない教育(こども、デジタル弱者)
- 地域通貨・地域ポイントによる地域活性化
- 行政手続のオンライン化
- コミュニティの活性化
- 防災・減災・災害対策
- 公共設備(水道・橋など)維持・管理の省力化

産業のDX

人と人、地域と地域をつなぎ、
新たな産業や経済的価値を創出

- 自然環境の保全(エネルギー含む)
- 農業の省力化
- 林業の省力化
- DX人材の育成
- 観光の最適化
- 営業・販売の拡大
- 働き方の改革(テレワーク・副業など)
- 新産業の創出
- 技術の伝承
- 他都市との連携促進
- 海外との連携促進

変えるべきところは変え
守るべきところは守ります



互いを認め合い
市民の多様性を発揮します



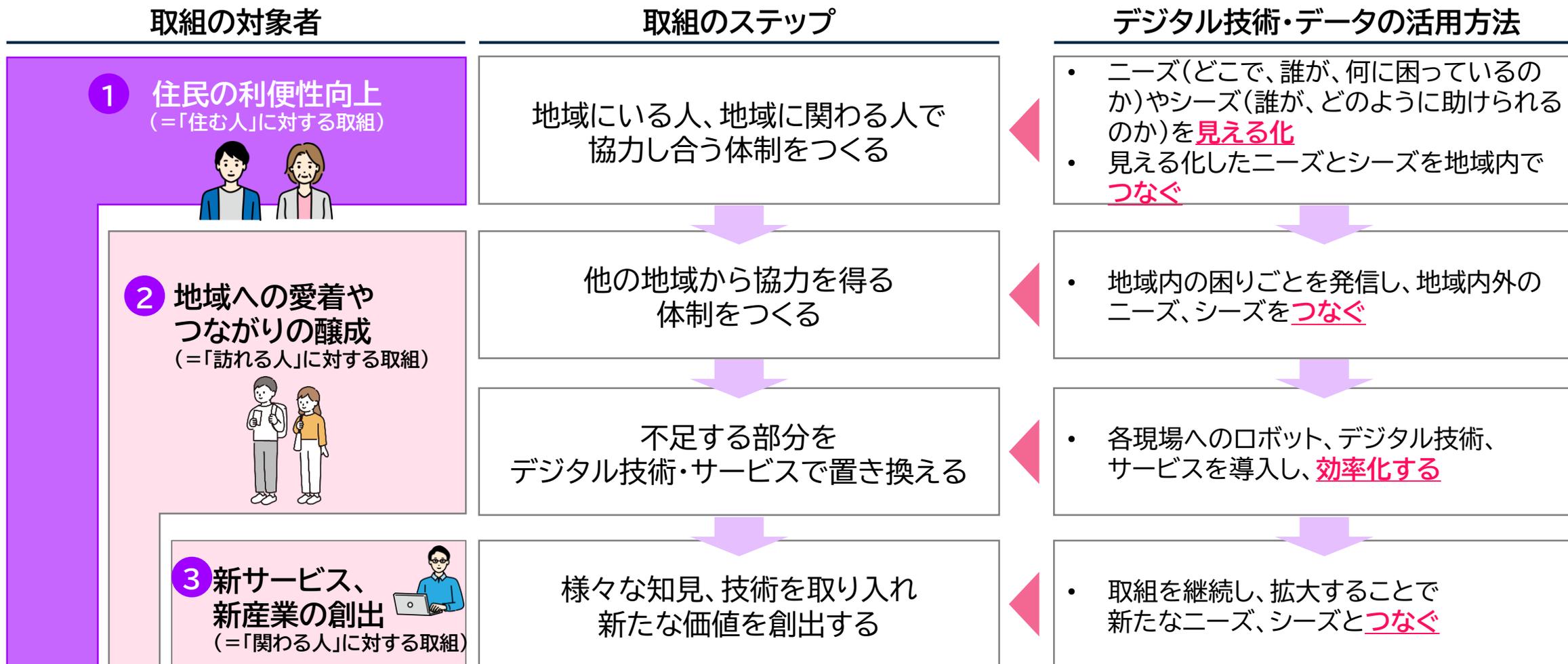
ヒト・モノ・カネが集まり
新たな価値を創造します





基本施策の取組のステップ

茅野市のDXが目指すもの(=、「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」)の実現にあたっては、「住む人」の利便性向上を軸に、「訪れる人」や「関わる人」の力を活用できる仕組みづくりを行います。





茅野市のDXを支える仕組み① – 全体像

茅野市のDXが目指す「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」の実現および理念・基本方針・基本施策に則り着実に取組を進めるために、以下の「ルール」「市民理解の醸成」「デジタル基盤」の整備および「人材の育成」に取り組みます。



茅野市のDXが目指すもの

「たくましく やさしい しなやかな 交流拠点CHINO」
の実現

基本理念・基本方針・基本施策に基づく、様々なサービスの展開・活用

ルール



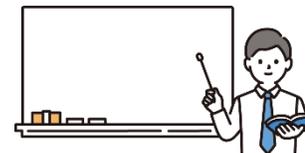
DXの取組に市民が安心して参加できるよう、DXの基本理念を体現するルールを策定します。

市民理解の醸成



市民の納得を得られるよう説明を行うとともに、サービスの利用を希望する人には手厚く支援することで市民理解を醸成します。

人材育成



デジタル技術やデータを活用して課題を解決する技能をもち、地域におけるDXの効果をも最大限発揮するための人材を育成します。

デジタル基盤



必要な時に必要なデータの相互連携・共有を可能とするオープンなデータ連携基盤(=都市OS)を整備します。



茅野市のDXを支える仕組み② – ルール

DXの取組に市民が安心して参加できるように、DXの基本理念を体現するルールを策定します。

茅野市のDXを実現する10のルール*

| |
|---|
| 1. サービス、技術導入の際は、システム間、地域間において様々なデータに接続することが可能となる相互運用性を担保し、市民、地域、企業の共存を図ります。 |
| 2. データの利活用にあたっては、個人情報を守るため、プライバシーの保護に十分配慮するとともに、 |
| 3. デジタル・シティの推進により、コミュニティにおける個人の尊厳を |
| 4. デジタル |
| 5. 運用 ます るように努め |
| 6. 市民 |
| 7. 取組 |
| 8. 付加価値を |
| 9. 市民が便利さを実感 デジタル化を目指します 「わかりやすい」「楽しい」 |
| 10. デジタル技術の利用やデータの流通に デジタル人材の育成・確保や、デジタル 関連技術の研究開発の促進を行います。 |

内容調整中



茅野市のDXを支える仕組み③ – 市民理解の醸成

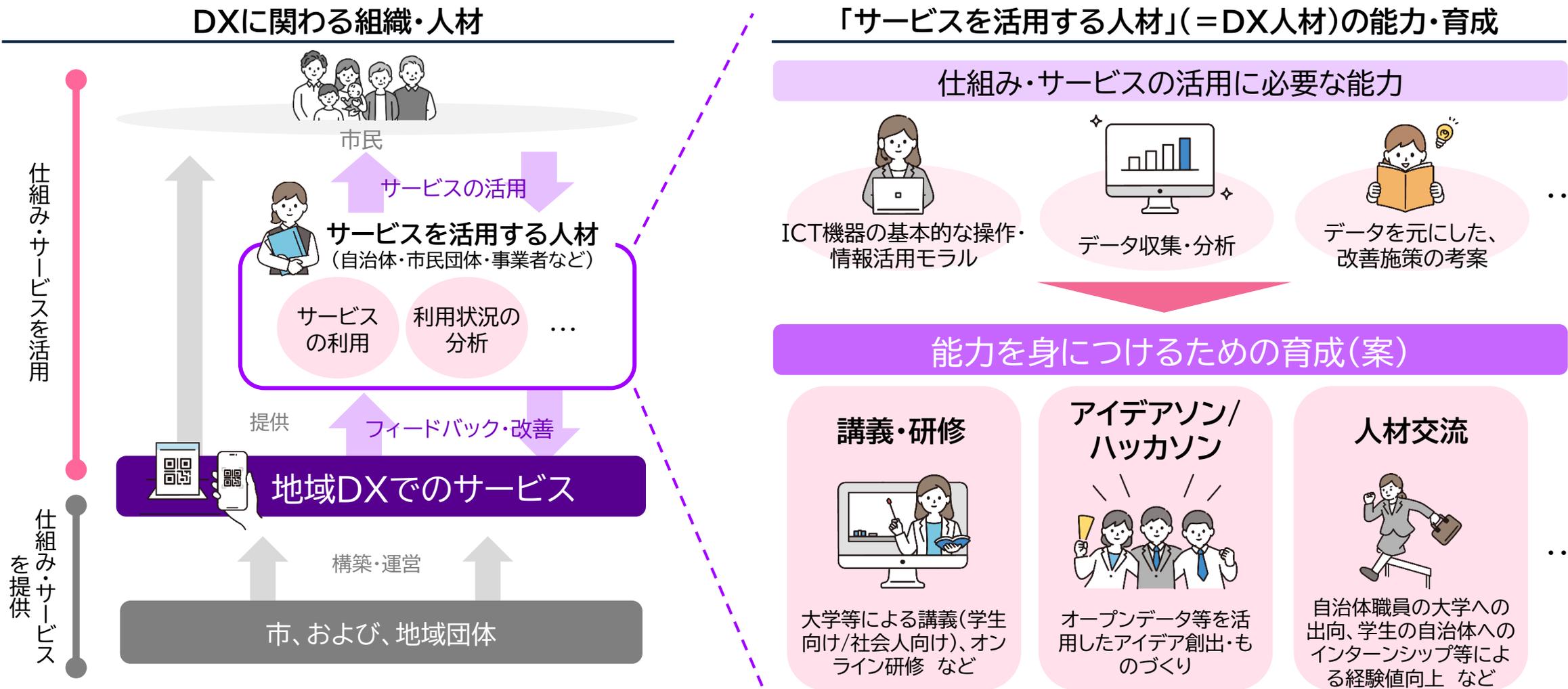
市民の納得を得られるよう説明を行うとともに、サービスの利用を希望する人には手厚く支援することで市民理解を醸成します。

内容調整中



茅野市のDXを支える仕組み④ – DX人材の育成

デジタル技術やデータを活用して課題を解決する技能をもち、茅野市におけるDXの効果をも最大限発揮するための人材を育成します。

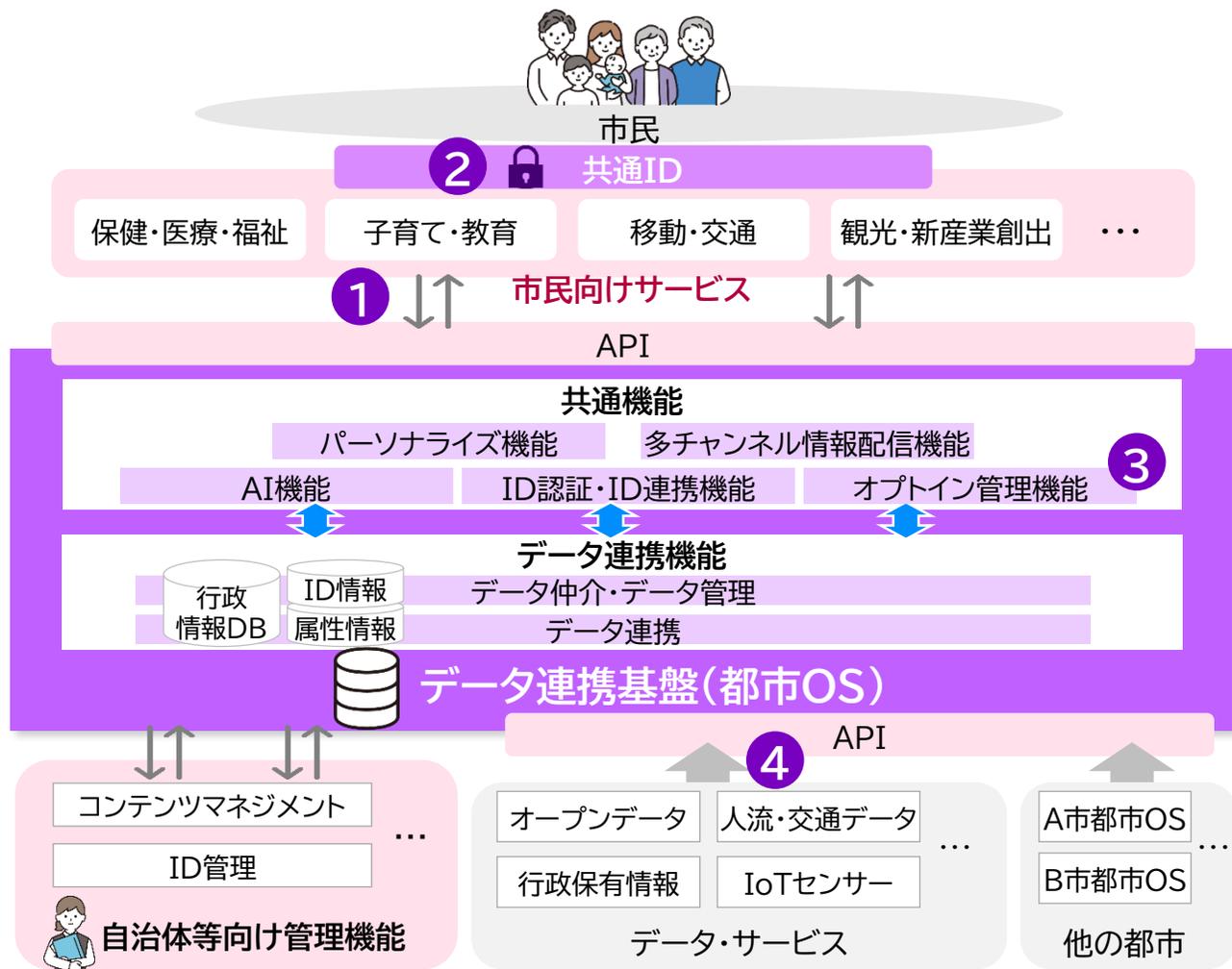




茅野市のDXを支える仕組み⑤ – デジタル基盤

必要な時に必要なデータの相互連携・共有を可能とするオープンなデータ連携基盤(=都市OS)を整備します。

データ連携基盤の構成概要(イメージ)



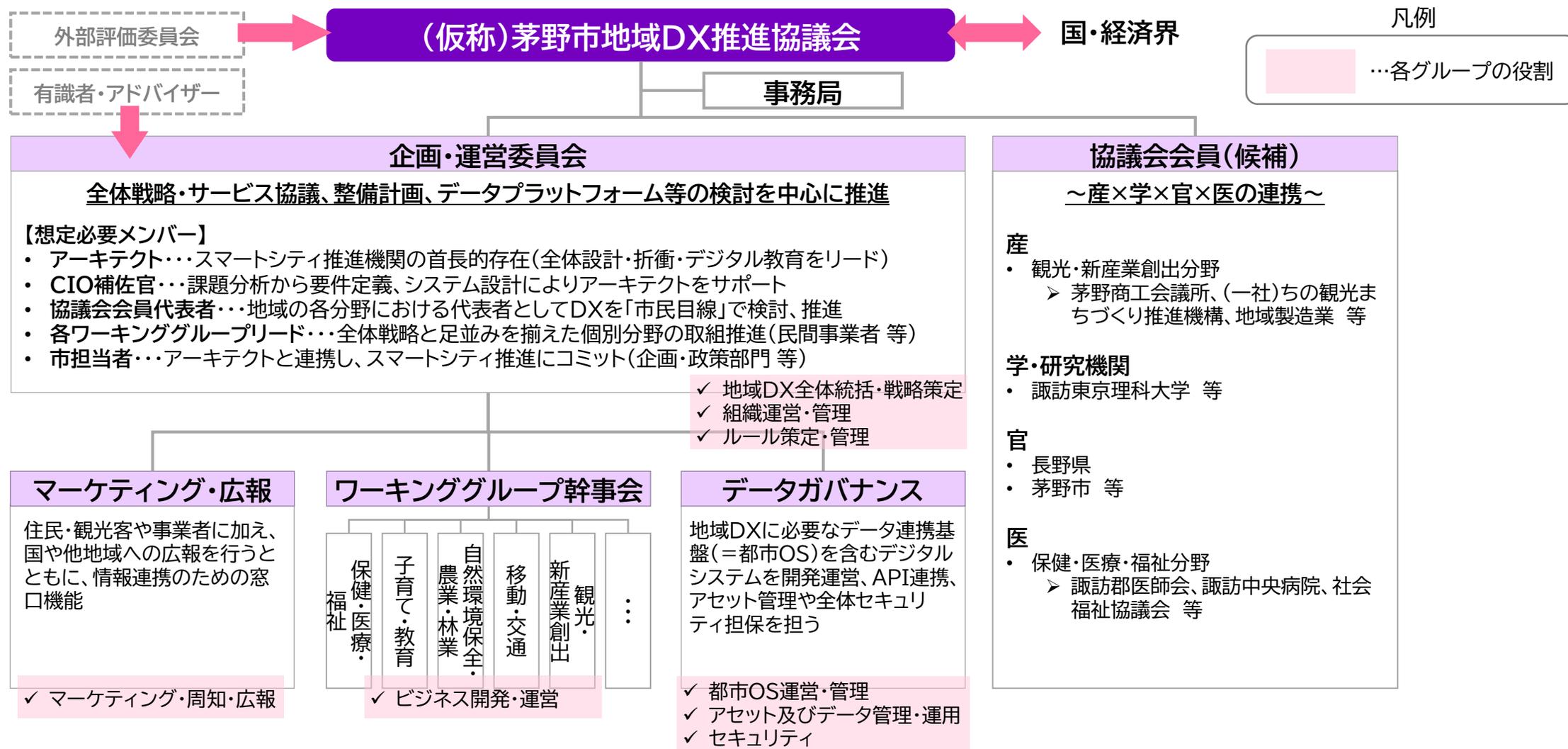
データ連携基盤の主な機能

- 1 柔軟なサービス間連携**
市民向けの様々なサービスがデータ連携基盤を通じて連携・運用。サービス間のデータが連携され、適切なレコメンドを実現するなど、市民の利便性を向上
- 2 ワンストップID認証**
マイナンバーやソーシャルIDを活用した認証機能を整備。市民・管理者ともに権限管理をしたアクセス制御
- 3 オプトイン管理**
個人情報提供の可否を管理し、市民はポータルサイトからいつでも設定を変更可能
- 4 多様なデータの連携**
市の保有データ(行政データ)や街から収集されるデータなどを適宜連携



茅野市のDXを進めるための体制図

DXの取組を「市民目線」で考え、推進するため、地域の様々な関係者が一体となった組織を構築します。



茅野市のDXサービスのイメージ



内容調整中

DX基本計画策定の方向性



内容調整中